

令和十年秘仏ご本尊 千手観音菩薩 御開扉

開山一千二百五十年 特別記念散華について

四天王とは、多聞天、広目天、増長天、持国天、の四体で、仏法を悪から守護し、伽藍や地域を護る最強の守護神です。また、仏様だけでは救いきれない人々にご利益を授け救済をしてくれる福德神という性格も持っています。

ところが、当山の四天王像は過去、何かの影響で二天を失っています。そこで、失われた「増長天・持国天の復興」及び、開山一千二百五十年を迎えるに当たり、「開祖の藤原皆足姫（ふじわらのみなたるひめ）像の造立」を発願しました。また、ご本尊御開扉記念として、古本縁起絵巻の御影を基に「本尊 千手観音菩薩の香合仏」を制作し数量限定で授与致します。制作はMBS毎日放送「情熱大陸」でも広く知られ、世界的に名を馳せ、近年最も注目を集めている世界的彫刻アーティストで名仏師の加藤巍山（かとう ぎざん）師が手掛けます。散華は製作されるそれぞれの仏像を加藤師が原画にしたもので、当山と所縁のある植物や動物、風景、祭事等を散りばめ、特別な切り絵散華に仕立てました。散華は朱印帳等に納めて末永く功德をお授かりください。尚、頂戴致しました授与料は仏像制作寄金とさせていただきます。

金陵山西大寺 合掌

加藤 巍山 (Kato Gizan)

一九六八年、東京・本所両国に生まれる。
高村光雲より五代の流れを汲む。
儀軌に準拠した仏像を制作する一方、日本の古典や歴史、仏教や神話を題材とした作品を制作。
歴史や伝統、文化、民族に根差した「日本の美意識」と「仏師」であることに立脚しながら祈りの根源を探求し普遍的な美を求む。



加藤巍山師制作の西大寺ご開扉事業支援寄進返礼品



百万塔



ご本尊御影香合仏



牛玉宝珠（ごおうほうじゅ）

秘仏ご本尊ご開扉記念事業支援はこちらから

